長崎高教組新聞

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@fsinet.or.jp

「ゆいまーる　長崎高教組」・「全教『未来プロジェクト』ゆいまーる」

沖縄で　見て　聞いて　学んで　つながった

りゅう９ちゃん

12月23～25日開催の「ゆいまーる」報告の第２弾です。感想が届いたものから紹介していきます。

こんな気持ちで参加申込みをしました

○全教の集会に参加しようと思ったのは、沖縄での開催ということで、なかなか普段行けるところではないし、普段交流できない人との交流もあるので申し込みました。行くと決まった日からワクワクしていました。

「ゆいまーる」に参加させてもらい、長崎高教組ならびに関係者には貴重な交流や体験ができたこと、心から感謝申し上げます。

○沖縄県で行われた「未来をひらくプロジェクト・ゆいま～る」では、憲法違反である「戦争法」の発動により、国内で多くの被害を受けている沖縄県の方がどの様なことで国に抗議しているか、沖縄県民の考え方や国に対する思いなど学ぶことを重点にプロジェクトに参加しました。

辺野古の浜

「ゆいまーる　長崎高教組」

○１日目の沖縄研修では、田中団長のわかりやすい説明も聞きながら、首里城を見学することができました。時間が限られているなか全体的に首里城を回れ、短時間ですが、異国に来たような感覚になりました。

その後、県庁近くのホテルに戻り、ホテル近くの居酒屋で長崎県の夕食交流会がありました。沖縄の郷土料理やお酒を飲みながら、楽しく夕食交流会ができたと思います。

首里城前でパチリ

オープニング・三上さん講演・トーク

○２日目は空港から会場のホテルまでバスが準備されており、それに乗り会場まで行くことができました。約１時間の道のりでしたが、沖縄ならではの町並みや風景が多くとても良かったです。

ホテルに着き受付を終え席に着くと、文化行事としてステージでエイサーが披露されていました。エイサーをじっくり観覧したのは初めてで、かっこよく言葉では言い表せられない迫力で圧巻の演舞でした。

全体会は15時からで、オープニングは各地の取り組みを映像で観るところから始まりました。各地の青年部の取り組みなど観る・聞くことができ、各地で頑張って活動している青年部の人たちに感銘を受けました。自分自身が少しでも何かできないかと考えさせられました。

オープニングが終わり、次に映画監督の三上智恵さんの講演があり、基地のこわさや本土に届いていない事件やニュース、沖縄に住んでいる恐怖など、日頃聞けない話ばかりで心に響きました。その後、青年と三上さんのトークがあり、エンディングには憲法や沖縄についての思いや取り組み、今後の決意を交流し全大会は終了しました。

○全体会では、ジャーナリスト三上智恵さんの講演があり、今起きている沖縄県の問題や戦争法の発動により起こりえる問題、また、沖縄県に対する国の考え方など多くの話しをお伺し、沖縄県で起きていることを学びました。

また、講演時に動画が流され、辺野古基地移設に反対する県民の思いや集団デモに参加し抗議している姿などが映されていました。どれだけの思いで参加したのか、なぜ、移設をおこなってはいけないのか、ニュースでは流れていない県民の声を聞くことが出来ました。三上智恵さんから「全国ニュースで放送されている沖縄県の問題はごく僅かであり、沖縄県民が伝えたい気持ちが届いていない」という話があり、全国ニュースでは流れない本当の声を聞き、改めてこのゆいまーるプロジェクトに参加した意義を確認することが出来ました。

沖縄県の方はとても明るく楽しいというイメージが強かったのですが、その裏では、様々なことを我慢し生活していると思うと、心がとても痛みました。

フィールドワーク

○ガイドの上原さん、高江と辺野古の方から、直接「生」の声を聞くことができ、今の基地問題について、ニュースや過去に沖縄で生活していて良く知っていたつもりでしたが、じかに見聞きしないと気付かなかったこともたくさんあり、地域のみなさんの『思い』を深く知る機会となりました。

高江では、地域住民の大切な場所、公民館で地元選出の伊佐村議会議員さんに話を聞き、地域の自然や年中行事の話も聞いたり写真を見たりして、高江というやんばるの部落のそばらしさに感動しました。しかし、こんな素晴らしい集落のそばに米軍施設があり、いつも危険や騒音にさらされていることへのいたたまれなさを感じました。

ただ、今回のフィールドワーク当日はクリスマスということで米軍も休暇で、オスプレイやヘリコプターも飛んでおらず、高江の工事も休みで、ニュースで見たような物々しさは感じることはありませんでした。本当に静かで、高江では鳥のさえずり、辺野古の海岸のテントそばでは波の音が心地よく耳に入ってきました。これこそがあるべき「普段の姿」でしょうが、逆にオスプレイやヘリが飛び交い、機動隊やガードマンが物々しく警備しながら工事を行っている今の本当の「現実」は体感することができませんでした。それが心残りではありますが・・。

今回のフィールドワークの参加は今後の「きっかけづくり」と考え、改めて本当の現状を体感するため、また高江や辺野古を訪れたいと強く感じました。

ところで、昼食休憩は「サンライズひがし」でしたが、みなさん浦の砂浜で思い思い、波の音を聞き、潮風を浴びながら弁当を広げ、ご飯を食べ終わったあとは砂浜を散策して貝殻を拾っている方、のんびり海を眺めている方、そして若い先生たちが靴を脱いではしゃぎながら水に入っているようす、そして心地よい波の音が印象に残りました。この海岸は沖縄戦で米軍が上陸したところではないと思いますが、こんなのどかな雰囲気は平和なればこそで、戦争であれば、こののどかな風景も一変してしまうことを深く感じながら風景を眺めていました。当たり前の日常、文化、自然、大切な人をも奪ってしまう「いくさ世」は絶対にいやだ！！そう感じました・・。

○フィールドワークでは、沖縄県の歴史について学ぶ活動に参加しました。教科書に載っている首里城を見学し、お城の迫力に圧倒され、本州から離れた沖縄独自の文化や歴史を感じました。その後は、現在公園となっている嘉数高台へ向かいました。当時は戦場として使われており、コンクリート製の小さな基地や洞穴など多くの痕跡が残っていました。当時、戦場として使われていた戦地の痕跡から、今の日本を築き上げてきた歴史を見ることが出来ました。また、嘉数高台の展望台からは普天間基地を見ることが出来、住宅から基地までの距離、基地周辺に建っている公共施設、環境問題など、展望台からの風景を見ていると、基地の危険性がひしひしと伝わってきました。

支部だより【壱岐支部】議案書の検討も新年会もみんなで楽しく！

みんな笑顔です

1月19日、本部より馬場書記長を迎え、支部全員の出席を得て、中央委員会議案書検討＆支部新年会を開催しました。

角丸さんの美味しい料理に舌鼓を打ち、バルーンアートで子どもたちも大喜びで、楽しい宴となりました。一人ひとりのこぼれるような笑顔が壱岐支部の雰囲気のよさを表しています。今年も一年、いい年になりそうな予感がしました。

次回の支部会議は、3月10日に決定しました。支部・分会体制の確立が課題で、懇親会のテーマは、「誰かさんの定年で飲もう会」とはやばやと決定しました。

【大村支部】アクティブ・ラーニングを体験

1月21日大村市で、大村支部教研が開催されました。大村高校地歴科の溝上先生によるアクティブ・ラーニングの授業実践が行われました。大村、大村工業、大村城南、川棚、本部から計10人が参加しました。

アクティブ・ラーニングに入る前に

溝上先生の授業を受けて、アクティブ・ラーニングを実践的に理解してもらうという形ですすめられました。

まずは、授業に入る前に、参加者を二つのグループに分け、緊張を取り除くアイスブレーキングを行いました。「ETタッチ」（映画「ET」の有名なシーン、指と指での交信、交流、あいさつ）、さらにすすんで「握手」でグループ内の雰囲気を盛り上げました。そして、①本日の教研に期待すること、②アクティブ・ラーニングについての印象を各人に書きだしてもらい、グループ内で発表しあいました。この時、プロジェクターの画面に、残り時間を刻んでいくタイマーが表示され、あと1分とか、30秒とか視覚的に認識でき、残り時間が刻まれていくので、参加者から見やすい、分かりやすいの声が上がりました。

KP法を駆使して自己紹介、アクティブ・ラーニングは生徒のやる気を引き出す

溝上先生の自己紹介やアクティブ・ラーニングとの出会い、アクティブ・ラーニングをKP法で紹介するプレゼンテーションを受けました。KP法とは、紙芝居・プレゼンテーションの略ということで、軽い笑いから入りました。簡潔に書き出された用紙を白板に貼りながら、非常勤講師・臨時採用・初任校から現在までの勤務校、部活動指導、生徒会指導について自己紹介をおこない、生徒会指導で企画力を伸ばしたことや高校時代も初任校、現勤校でもボート部での活動、指導に全力を尽くしていることなどを紹介していきました。

そして、前任校でアクティブ・ラーニングと出会い、教科指導に活用していることが紹介されました。その中で、地歴科の科目横断型の授業や、次期学習指導要領の「歴史総合」に対応していくためにはアクティブ・ラーニング（厳密にいえば、アクティブ・ラーニング型の授業）が必然となってくると指摘しました。具体的には、日本史と世界史のすべてを学習するのには時間が足りないので、日本史を学習した者はその知識を世界史学習者にシェアし、世界史を学習した者はその知識を日本史学習者にシェアする形で学習時間の短縮化と教え合うことでの知識の確認定着に期待が出来るとのことでした。

また、「授業の部活動化」という言葉が目をひきました。部活動は指導者がいろいろ考えて準備を行い、練習メニューを提示し、指導をしていきますが、本質は生徒の活動が一番重要です。授業も、生徒の興味関心に焦点をあて、生徒の知的レベルにあった教材や学習指導方法を工夫をする準備が非常に大切で、最終的に生徒が主体的に学習にとりくむことが重要です。また、部活動でチームの果たす役割は大きいが、授業でも一人の成績が伸びるよりもクラス全体の成長が実現したときに喜びは大きくなります。部活動も授業もやらされて得た成果でも幸福感は得られるが、自主的に主体的にやる気を伸ばして自分たちでやって成果が出たときの幸福感、充実感はとてつもなく大きいものです。アクティブ・ラーニングは、生徒たちがやる気を出すきっかけづくりを行うことです。

KP法による授業を振り返る

KP法による授業を受けた後、グループで感想を発表し合いました。「アクティブ・ラーニングは自由度を認める勇気が必要」、「授業の前の準備が大切だし大変」、「紙芝居で集中力UP、ただしセンスも必要かな」、「授業の部活動化」、「個人の成長だけでなく、クラス全体の成長をめざす」などの点に関心をもったり、賞賛する意見が出ました。

大村高校での実践記録から学ぶ

後半は、①「理想とする未来の社会」、②「戦争はなくすことができる」をテーマに実践してきた授業での生徒たちの回答、感想、補足説明資料（授業プリントも含む）などを紹介しました。

①については、「平和」を上げている生徒が多いことと、「個人の尊重」、「言論の自由が保障される社会」など基本的人権が尊重される社会を生徒も望んでいることが分かりました。

②については、戦争に関わって「質問づくり」を行う中で、戦争がおこる原因やどうして戦争がなくならないのか、幸せとは何なのか、戦争の被害などについての質問が出てきて、戦争について今まで以上に深く考えることができました。

一方で、主体的な社会参加で、社会を変えられるかもしれないと思っている生徒の比率が全国平均と比して若干低いのが気になり、これを上げるために何をなすべきか考えていますとまとめられました。

教研の後、緊急の仕事を終えて遅れて参加した1人を加えて、11人で懇親会を行いました。懇親会の途中で、「ゆいまーる長崎高教組」・「全教『未来プロジェクト』ゆいまーる」について溝上先生から報告がありました。嘉手納基地や辺野古基地建設予定地などの写真や映像をみて、沖縄の置かれている現状、問題について大いに考えさせられました。

全教共済　春募集

生命・医療・新障害の各共済の新規加入が年度内に可能です（通常は5・6月）。詳しくは高教組本部にご確認ください。

※下記のビッグスリーや火災共済・全教自動車保険はいつでも加入できます。

春闘に向けて気持ちをひとつに!!

1月6日の朝、国民春闘「全国一斉新春宣伝行動」が、長崎、浦上、佐世保、諫早、大村の5か所の駅前で行われました。ポケットティッシュ付きチラシと春闘アンケートはがきを配布し、「全国で4割に達する非正規労働者と貧困の改善を！」「313兆円を超える大企業の内部留保と50万円以上も下がった実質賃金の是正！」「大幅賃上げと最低賃金の引き上げで働く者の賃金底上げを！」等々訴えました。

全体で48人が参加し、1260枚のチラシとアンケートはがきを配布しました。高教組からは、長崎2、佐世保2、諫早2、大村1の計7人が行動に参加しました。

右：長崎駅前

左：佐世保駅前